

〔曲 名〕 Tramonto Magiaro

ハンガリーの黄昏

〔曲 種〕 Rapsodia

狂詩曲

〔作曲者〕 Dino Berruti

ディノ・ベルティ

〔編曲者〕

1930年ミラノのイル・プレットロ主催の作曲コンクールに「モスクウの真昼」と「黄昏語る時」を提出、

両曲共一等入賞し賞金一千リラを受けたのが本曲作者ベルティである。

それまで主としてギター独奏曲の小品のみを発表していたが、マンドリンオーケストラを書き出してから俄に脚光を浴びるに至った。

生年不明のため当時仙台アルモニアでも無名の青年作曲家として紹介されているが、

トリノーで数多出版されているギター曲は今世紀初頭なので19世紀後期の生まれであろう。

当時イタリアのマンドリン界はアマデイ、マネンテ、ファルボ、ボッタキアーリ、ミラネージ等輝かしい作品を生んだ後、

沈滞期を迎えていったが、ベルティの出現はイタリアのマンドリン界に一種清新な氣息を与えたが、それはマンドリン音楽の根強いカンタービレの性質とリズムや旋律の扱い方に対して新しい精彩を加えたもので、

ロマンティックとファンタジーの構成に一段と新しい境地を求めている。

本曲「ハンガリーの黄昏」は1936年イル・プレットロ主催の第7回作曲コンクールに受賞した狂詩曲。

ハンガリー地方の民舞曲をモチーフとし情緒的なラッサンと白熱的なフリスカを対照させ、独奏とマンドリンオーケストラの対比も却々に華麗で演奏効果を挙げている。

中間部のカデンツァは別に書かれた由であるが特別頒布のもので本邦には入っていないらしいのが残念である。

作者はカサーレ（ミラノとトリノの中間都市）に定住してに生まれ同地で音楽教育を受け
弦楽合奏やマンドリン合奏団の指揮者を努めたとあるが1960年前後自殺したと伝えられている。
（ベルティ作品表は別掲）

1971年8月30日発行

イタリアマンドリン百曲選第13集より